



Paulownia

建学の精神 神を畏れることは知識のはじめである

Vol.376
2020.12.8

Paulownia とは中部学院のシンボルである「桐」の英語表記で、かつては大学祭を「ポローニア祭」と呼び、学生に親しまれてきました。

ゴルフ部

櫻井和男監督 岐阜新聞スポーツ賞 プロゴルファー 18 名を生み出す



岐阜新聞スポーツ賞（功労者）の受賞が決まった
ゴルフ部の櫻井和男監督

さくらい・かずお

1952 年島根県生まれ。1975 年中京大学体育学部卒業。同年 4 月より美濃加茂高校保健体育教員として赴任。陸上部顧問。80 年 1 月より同校硬式野球部部長。同年と 90 年、夏の甲子園「全国高校野球選手権大会」に出場。94 年 4 月より同校ゴルフ部顧問。2013 年より中部学院大学ゴルフ部監督。これまで 18 年間にわたり、国体ゴルフ競技の監督を務め、ぎふ清流国体（2012 年）など 3 度の優勝に導く。プロゴルファーは、美濃加茂高校時代を含めて 18 名（男子 13 名、女子 5 名）を輩出。本学では計 8 名（男子 7 名、女子 1 名）を生み出した。好きな言葉は「継続は力なり」。68 歳。

本学ゴルフ部の櫻井和男監督が「第 47 回岐阜新聞スポーツ賞（功労者）」を受賞することが決まりました。同賞は国際・国内大会などで活躍した県ゆかりのアスリートやスポーツ振興に貢献した功労者を表彰しています。櫻井監督にこれまで大切にされてきたことや今後の抱負などについて聞きました。

—これまでを振り返っていかがですか。

高校では陸上部 5 年、高校野球部 14 年、ゴルフ部 19 年、大学では 8 年の計 46 年間、部活動の顧問を務めてきましたが、いろいろ経験させていただきました。

—選手を指導する時に大切にされてきたことは。

ルール、マナー、エチケットは大原則ですが、大学では自主性を促すことを心掛けてきました。ゴルフの個人戦はスタートしたら声をかけることができず、本人次第になります。試合前は持っている力を出せるような言葉かけや雰囲気づくりに努めてきました。また、ゴルフを通じて人間性を養うことを意識してきました。選手には、普段の練習や日常生活、毎日の講義の中から、苦しいことを乗り越える力を身に付けることができることを伝えてきました。

—本学からは 8 名のプロゴルファーが誕生しました。

実力の世界で結果を出さないといけません。自ら選んで勝ち取った道。自らに勝ち、活躍してほしいです。

—今後の目標を聞かせてください。

常に上位に入れるチームづくりを続けていけば、必ず頂点を狙えるチャンスはあると思っています。なかなか容易ではありませんが、最善を尽くしたいと思います。国体では 4 度目の優勝を狙っていきたいです。